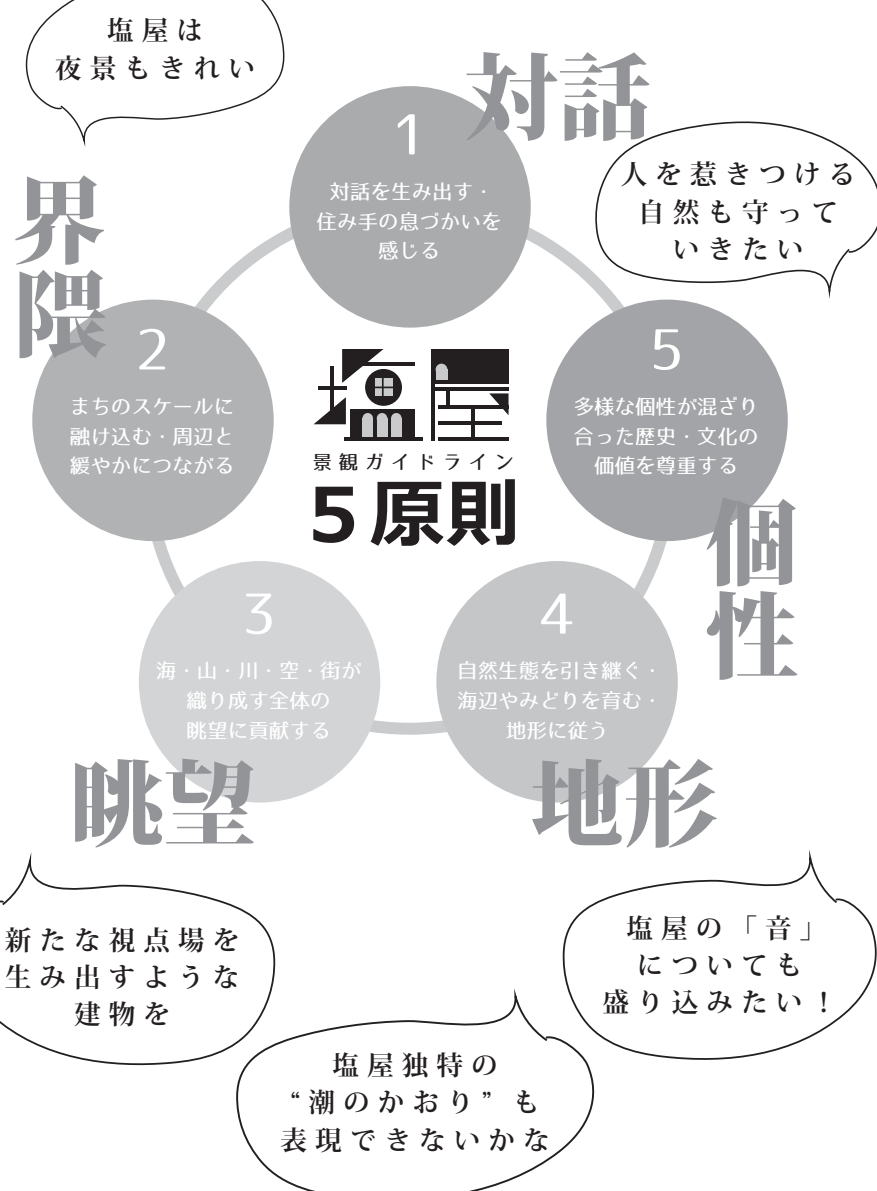


基本目標

自然・眺望・歴史を引き継ぎ  
地域固有の文化・魅力を育む

塩屋まちづくり推進会では、「塩屋らしい風景」を特定するとともに、それらを次代に継承していくためのガイドライン（指針）づくりをすすめています。まだ素案の段階ですが、以下の通り、「対話」「界限」「眺望」「地形」「個性」をキーワードとする「5原則」を設定し、今後、残していきたい塩屋の風景の共有を図っていく予定です。将来的には、このガイドラインに基づいて法令等に準ずるルール化も考えていきます。



■塩屋らしさってなんだろう？

これまで推進会では、「塩屋らしい風景」の写真を撮りためてきました。その数なんと数千枚に及びます。それらの写真をもとに、どんな点が優れているのか、どうなったら好ましくないのか、何が塩屋らしいと思う要因なのか…などを話し合っています。

対話

- 人と人の距離が自然と近づく
- 暮らしの営みがあふれ出ている
- たまり場・集いの場があちこちにある
- いつも誰かに出会う場がある
- 自分の家にいながらも「街」を感じる

界限

- 家々が肩を寄せ合うように並んでいる
- 建物や道のスケールが調和している
- 路地や階段がこまやかに入り組む
- 風合いや質感へのこだわりが垣間見える
- 混沌としたなかにまとまりが感じられる

眺望

- 時間や季節の変化が感じられる
- 山が海に吸い込まれるような感覚を抱く
- 海と空に向けて大きく視界が広がる
- たくさんの視点場がまちなかに潜む
- 街と呼応する水平線が見える

地形

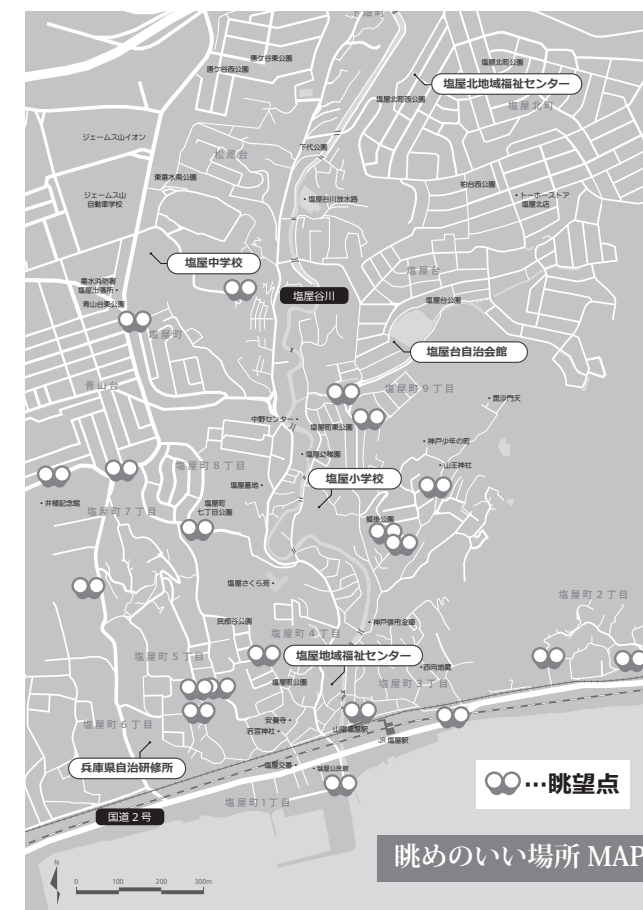
- すり鉢状の地形に街が寄り添う
- 微細な地形の起伏や揺らぎが感じられる
- 山裾や川沿いに草木が自生する
- 古い橋のかかる折れ曲がった川が流れる
- 街並みがみどりや木々に溶け込む

個性

- 地域の伝統が受け継がれている
- 思わず立ち止まる面白い建物がある
- 長く住民に愛されてきた洋館が残る
- 日々の暮らしに新たな発見がある
- ユニークなディテールが散らばっている

■眺めのいい場所

「塩屋らしい風景」のひとつは、何といても山や海への「眺望」です。この素晴らしい眺望をこれからも守っていくため、まずは、重要な視点場（どこから？）と視対象（なにを？）を選定していきたいと思っています。今のところ、右図に示す場所が挙げられていますがいかがでしょうか。「ここからの眺めもいいよ！」という場所があれば、ぜひ推進会までお知らせください。



まちを知る地図「しっとくしおや」完成！近々配布予定です

熊本で4月14日、地震が発生し、大被害を出しました。前震・本震という気象庁の専門家でも予測出来ない、本震より余震の方が震度が強く、しかも余震の頻度も多くて長時間続くという従来とは異なる現象でした。また、活断層が横にずれたことで連鎖反応を起こし、熊本・阿蘇・大分と震源地が時間の経過とともに移って行くという現象も過去に経験がありません。大変気の毒なことです。阪神大震災でも死者6,434人、全半壊家屋34万戸で被害に遭われた方は仮設住宅で不自由な生活を余儀なくされました。塩屋でも国道2号線沿いやJR塩屋駅、山電塩屋駅付近に大きな被害が出ました。

日本列島は近い将来、南海・東南海・東海地震に見舞われると予測されています。南海トラフのプレートの沈み込みによるM9の大地震や津波が発生する確率が極めて高いと云われています。

阪神大震災も20年が過ぎて、3割の方は未体験です。東日本も5年が過ぎました。『災害は忘れた頃にやってくる』のです。私たちは決して風化させてはいけません。

塩屋でも昭和13年の水害では橋が詰まり、床上浸水の被害が発生しております。塩屋は山、川、海があるため、災害に遭う危険性が高く、がけ崩れや河川の氾濫、高潮、風水害、火災、津波等あらゆる自然災害に備えることが必要です。また、家が密集して道路も狭く、階段や坂も

多い一方で、それらが織り成す固有の景観は塩屋の大きな魅力です。どんな要素が景観をつくっているのか、塩屋はどんな地形をしていて、どこにどんな自然があるのか、山や川、海とはどんな風に接しているのか。普段からそれらをよく知っておくことは、いざというときの備えにもなります。

「しっとくしおや」には、防災・減災という面だけでなく、塩屋の景観資源や魅力をたくさん盛り込みました。いつも手元に置いて使っていただける地図になっています。魅力ポイントを巡りながら、避難ルートや避難場所を確認してみてください。神戸市から配布されるハザードマップと見比べながら、毎年家族で話し合しましょう。備え有れば憂いなし。（北川保幸）

